

第5章 計画の進行管理

本計画の進行管理においては、PDCAサイクルにより継続的に評価、見直しを行います。計画の評価については、本計画に示した目標と進捗状況を確認します。また、「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール（環境省）」における評価についても進捗状況を測るひとつの指標と捉え、活用するものとします。

計画の評価については、概ね5年後に基本計画を見直すことから、当該基本計画策定時に5年間の施策の評価を行うこととします。この評価に基づき新たな目標値を設定し、追加の施策を講ずることを検討します。

PDCAの概念図を図5-1に示します。

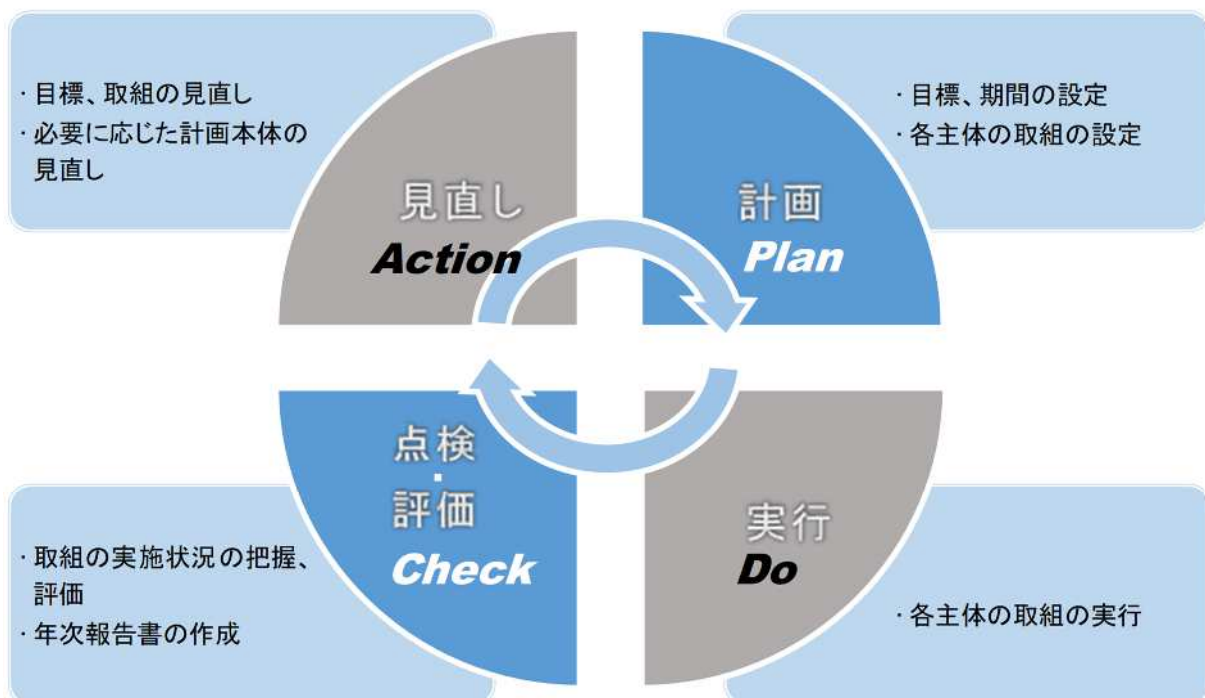


図5-1 PDCAの概念図

「使いキリ」

野菜を丸ごと使うなど、まだ食べられる食材を有効的に使って調理しましょう。また、余ったおかずをアレンジし、食材を使い切ることや、使い切れる分の食材を買うことを心がけましょう。

「食べキリ」

料理は必要な量だけ作るようにし、残さず、すべて食べきるようにしましょう。家族が食べる分量を把握し、作りすぎないようにしましょう。食べきれなかったときは、冷蔵・冷凍保存して早めに食べきりましょう。

食品ロスを減らすことは、燃やせるごみの減量にもつながります。P69のコラム「食品ロスの削減のためにできること」も併せて確認しましょう。

「水キリ」

生ごみの約80%は水分と言われています。生ごみの水分が多いまま家庭ごみ集積所に出してしまうと、ごみの重さが増えるだけでなく、臭いが発生し、動物がごみを荒らしてしまいます。生ごみを捨てる前に、水分を絞ると、臭いも軽減され、ごみの減量につながります。



水キリの方法

- ・ペットボトルの上部をロートのように切断し、水切りネットを飲み口から通してギュッと「ひとしぼり」
- ・三角コーナーの生ごみを押さえつけてギュッと「ひとしぼり」など

また、草も多く水分を含んでいます。草刈りをした後に袋の口を開けて乾燥させれば、日陰に1日置いただけで約20%、1週間で約50%の減量の効果があります。

水分が多い状態でごみを焼却すると、燃料を多く使い、二酸化炭素を大量に排出することになります。そのため、地球温暖化の一因となるだけでなく、ごみ処理に要する費用も高くなってしまいますので、「水キリ」に取り組んでいただくとともに、食材の「使いキリ」、「食べキリ」と合わせた「3キリ」でごみを減量しましょう。



NO-FOODLOSS PROJECT
食品ロス削減国民ロゴマーク「ろすのん」



坂戸市ごみ減量スローガン